

怪獣 母ちゃん 奮闘日記

怪獣母ちゃん事情

4人の子どもを育てる母
ちゃんが、家族、子育て、
自分のことなど日常のあ
りのままをつづります。

書く人／辻登志江さん

夫、子ども(三男一女／6歳・4歳・3歳・1歳)の6人家族。高校までバレーボール、ピアノ、勉強三昧(バレーは大学まで)。作業療法士として地元岡山でバリバリ働き、青年海外協力隊員としてチュニジアへ。その後大学院で学び、2012年結婚を機に徳島へ。農業に携わっている。43歳。

いつの頃からか、子ども達を怪獣と呼んでいる。「広辞苑」によると、正

体不明の不思議な獣、とか、特別な力をもつ生き物ですって。あら、ぴったり。うちには1号から4号までおります。

結婚して子どもができてが自然の流れかと思っていたけど、高齢出産確定のお年頃(36歳)だった私。実は流産も二回経験している。思えば叶う、なんでもできるって訳ではないらしい。そういえば自分の身体のこと知らないな、って思っ、身体さんと「赤さん」の心地よさを思っ、食生活を変えたり農業を始めた。ひたすら今を家族で楽しもう。よかつたら赤さん来てねって思ったりもしたなあ。実際妊娠したらつわりがあまりにもしんどくて心折れた。

1号くん誕生の瞬間は、ナンジャコリヤー体験すぎてびっくり仰天。思わず「世の中のお母さん達はみんなこんな体験してるんですねー、すごいです！もう待てません！いきんでいいですか!」って分娩時に叫ぶ私でした。産まれたら「嬉しいー!」ってまた泣き叫ぶのでした。4号まで出産をしました。

しっかし、子育て。わからんし、思うようになんてならないことだらけ。こちらの都合通りに寝てくれないしじつとしてないし、いろいろ待たないで、毎日何も起ころない日がない。今までの社会経験も役に立たないんじゃないかと思っってしまうくらいに、

怪獣達はいろいろ引き起こす。

どうやったらテレビや炊飯器が壊れちゃうのかしら、壁や仏壇のオリンに穴が開くのかしら？水筒、本：買ってきたものが1日で破壊!?部屋が一瞬でおもちゃの海!?畑の水飲んじやった、土を食べちゃった!?一食食べるのに床拭き五回は母への罰ゲームなのか!?喜怒哀楽の表現がなぜいちいち大音量!?つきない興味がありすぎてついていけない。エネルギー半端ない!

「こらあー、なんでだー、おいおいー、がおー、もういやだー。わからんわー!」って、自分でも驚くくらいの感情表現、すごい声が出ちゃいます。怪獣達は母ちゃんの感情まで解放してくれちゃいます。母ちゃんは自分のすごい声にびっくりして、ハツとして、「あれ?でもみんな生きてるからいいじゃん」って思ったら、もう笑うしなくなるわけです。もう観念して子ども達を観察するしかない。常に許容範囲の限界に挑戦中。そうこうしているうちに、あれ?怪獣は母ちゃん自身じゃん!と、気づいたわけです。怪獣道は未知で、果てしない。



松村美妃さんが描いた怪獣母ちゃんの家。本人たちそのもの!とよく言われます。